

見雷也

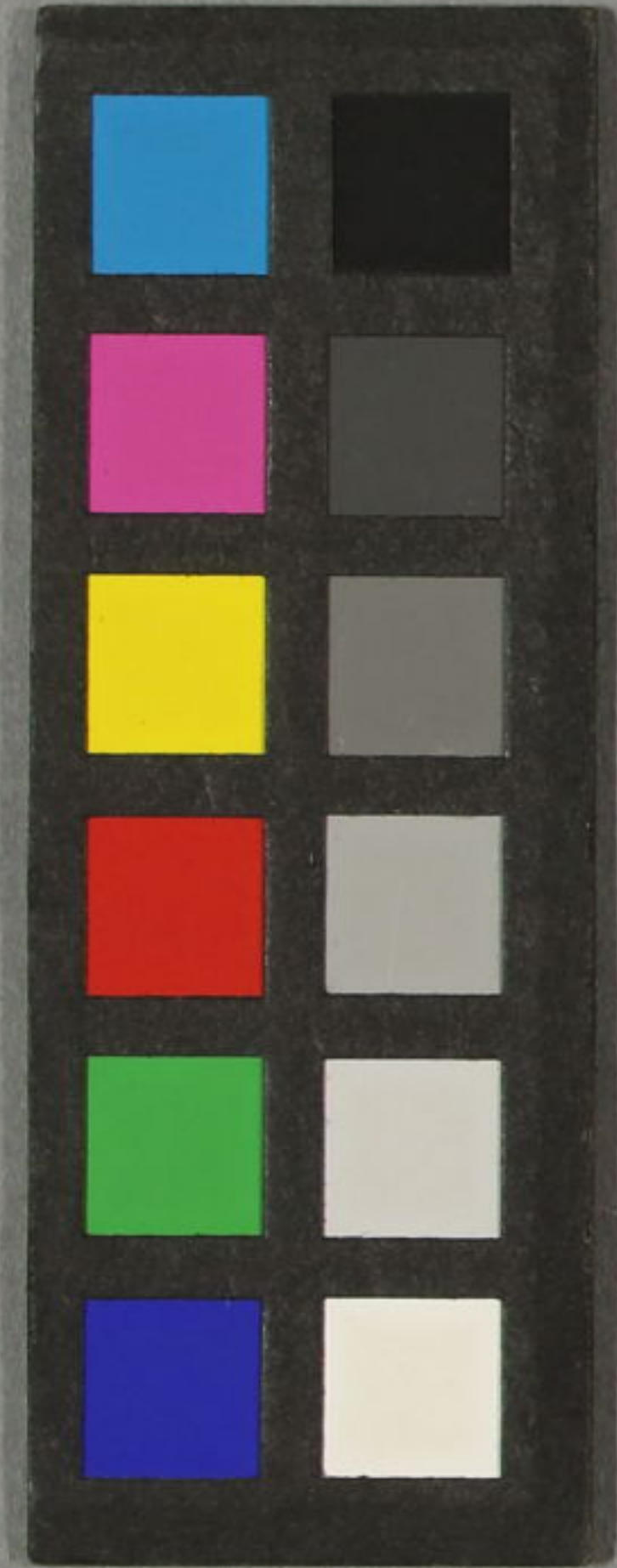
豪傑譚

之拾七編

甘泉堂梓



~13  
3877  
19





福

一

壽



大目房浄雲  
南天竺の梅  
樹の花と採る

日本書紀

門へ13  
3877  
巻19

見雷也豪 上集  
傑物終卅七編

甘泉堂



柳下亭考  
門人種清補著  
一勇多國其方重  
一人芳房補著

臣松力之助  
三万里餘を  
飛行之圖

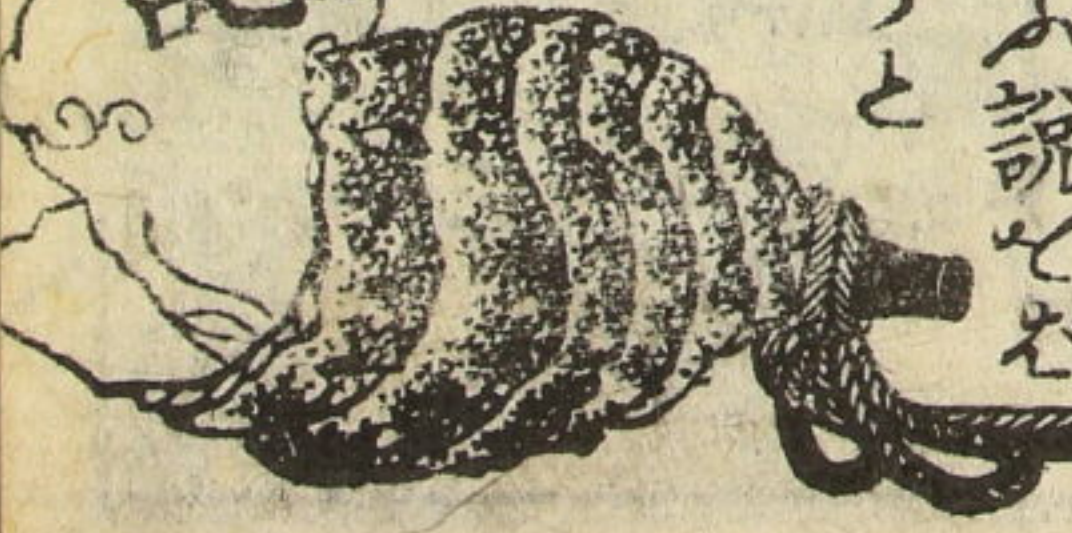


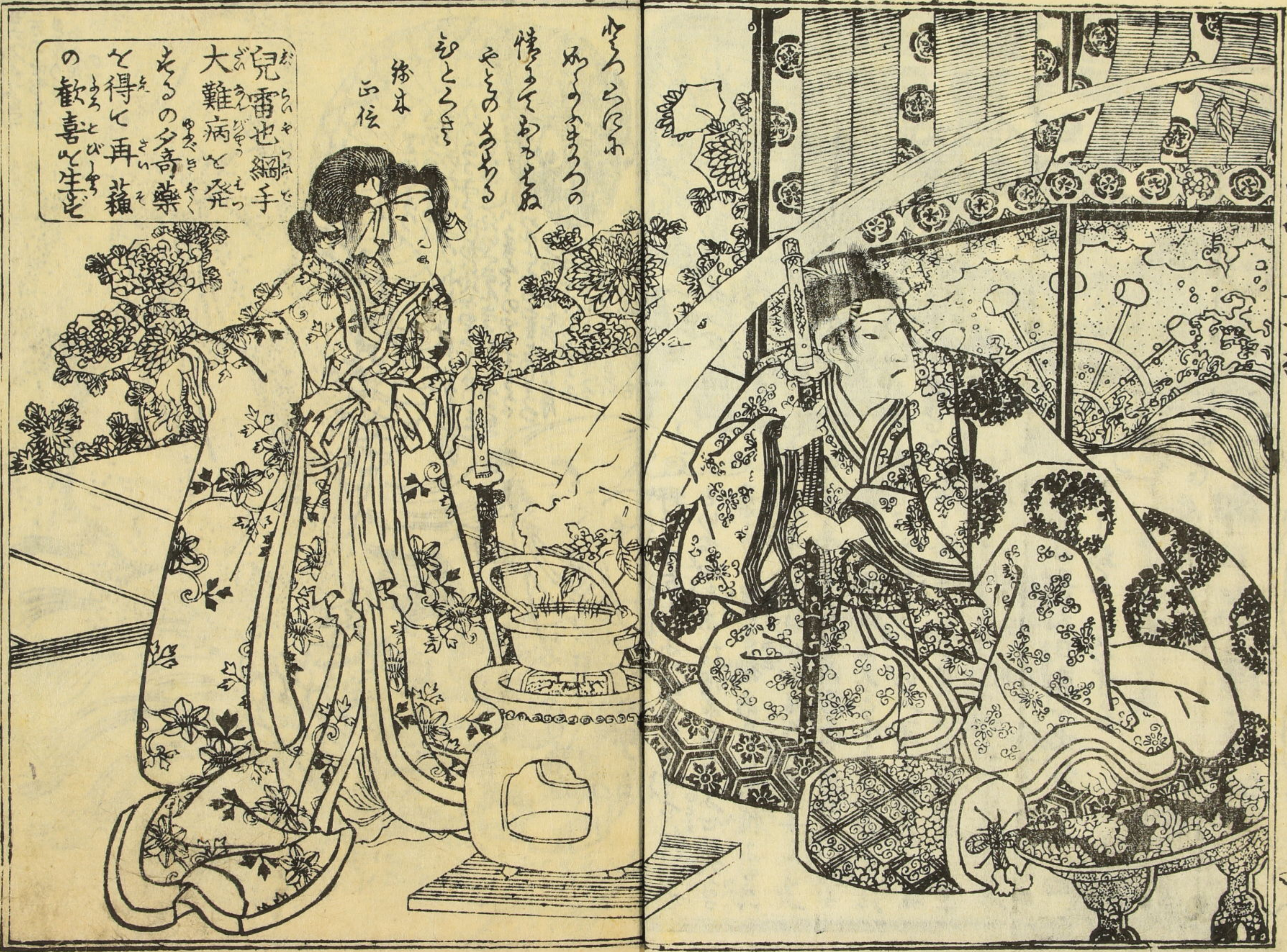
古木ハ花と葉をばらばらに  
削り桃より子と卵を搗む。  
蘇活の法と識る。呪ふ如く  
釘打バ蘇鉄煎炭。心執湯  
小投をれを露鳴草勃然と花葉を  
起す。殺禪尚養生の法あり。あとう  
奇薬のあらん哉。這稗史の目録を  
蛙と益る車前草の能ハ兒童も  
よく知る。古歌ハ是と神といふ  
古歌ハあををの林のたををの  
死しつる蛙と此葉はつむおまを蘇なる  
の功あれ也と萩原宗固の註あり。  
あをを一名車前草或ハ紫昔或ハ蝦  
蟻衣亦ハ陵馬守と号け。山東ハ  
牛舌といひ江東ハめかまると云奥切

野州の方言ハ何れに呼ぶ  
とりの和名ハね母とといふ心ハ大なる  
葉も一長き穂ありと。爾雅ハ  
郭璞ハ此故也。大葉子といふ  
ねをねの子の助字あり。時珍  
書ハハ蝦蟆ハあををといふ  
下ハあをを伏すといふ語を取證とす  
路傍ハ多なるねををといふ。活  
驗奇ハあををの口猫ハあをを  
花ハ伊蘭樹の毒を消すといふ説也。  
山伏ハ長大日房ハ吹あると  
ちハあををいめすか

葛延本草 初春

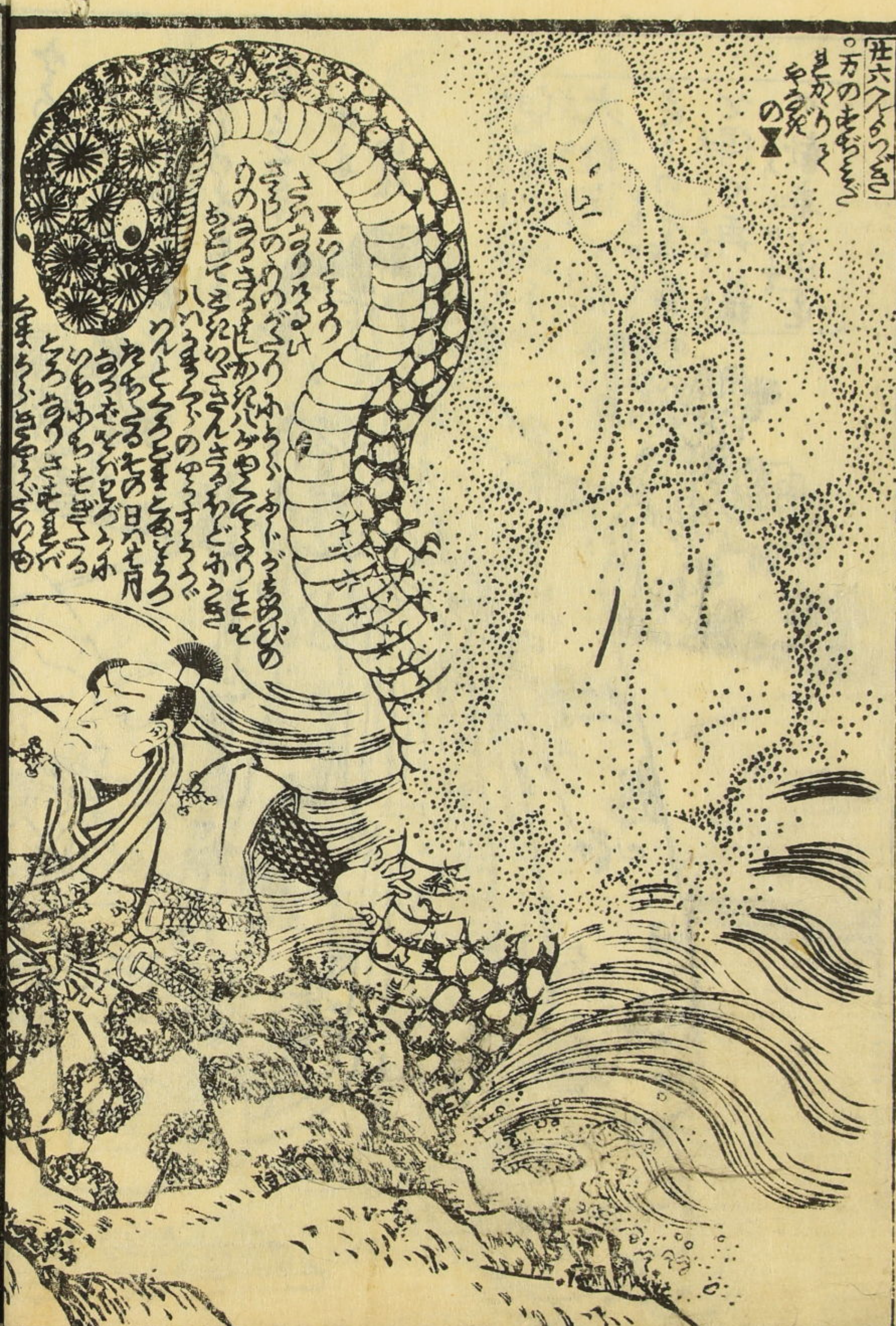
### 柳下亭種員記





兒雷也綱子  
 大難病と発  
 薬の夕高  
 と得て再蘇  
 の歡喜と生を

小  
 女  
 情  
 心  
 正  
 位



大蛇の首に  
 八咫鏡を懸け  
 八咫鏡の光で  
 大蛇の目を照らすと  
 蛇は死ぬる  
 大蛇の尾は  
 尾のしんじゆ  
 尾のしんじゆのうへ  
 にあかすそを  
 つかふと大蛇  
 は死ぬる

大蛇の首に  
 八咫鏡を懸け  
 八咫鏡の光で  
 大蛇の目を照らすと  
 蛇は死ぬる

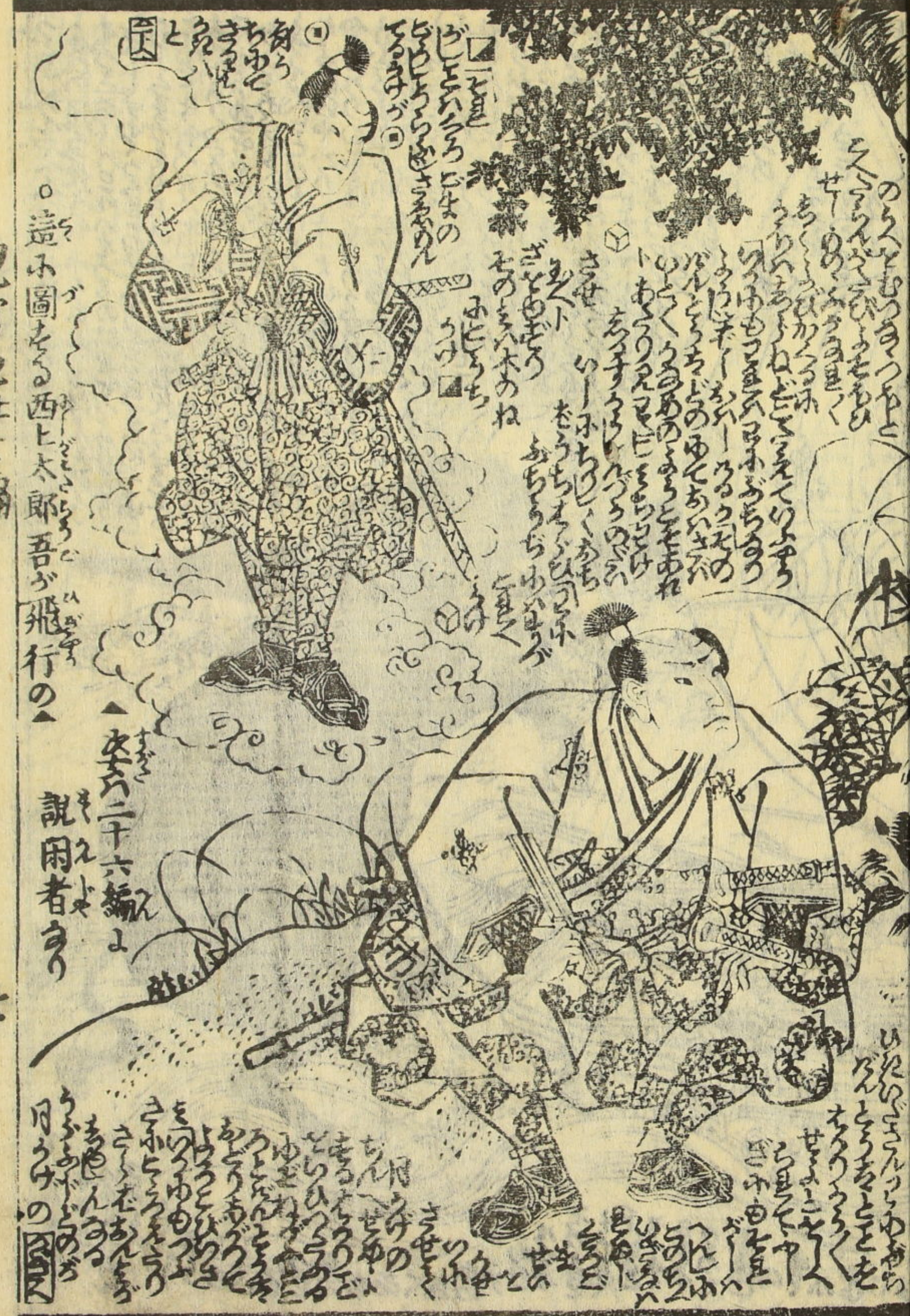
大蛇の首に  
 八咫鏡を懸け  
 八咫鏡の光で  
 大蛇の目を照らすと  
 蛇は死ぬる

大蛇の首に  
 八咫鏡を懸け  
 八咫鏡の光で  
 大蛇の目を照らすと  
 蛇は死ぬる









○這小圖をる西上太郎吾が飛行の

説用者あり

月々の

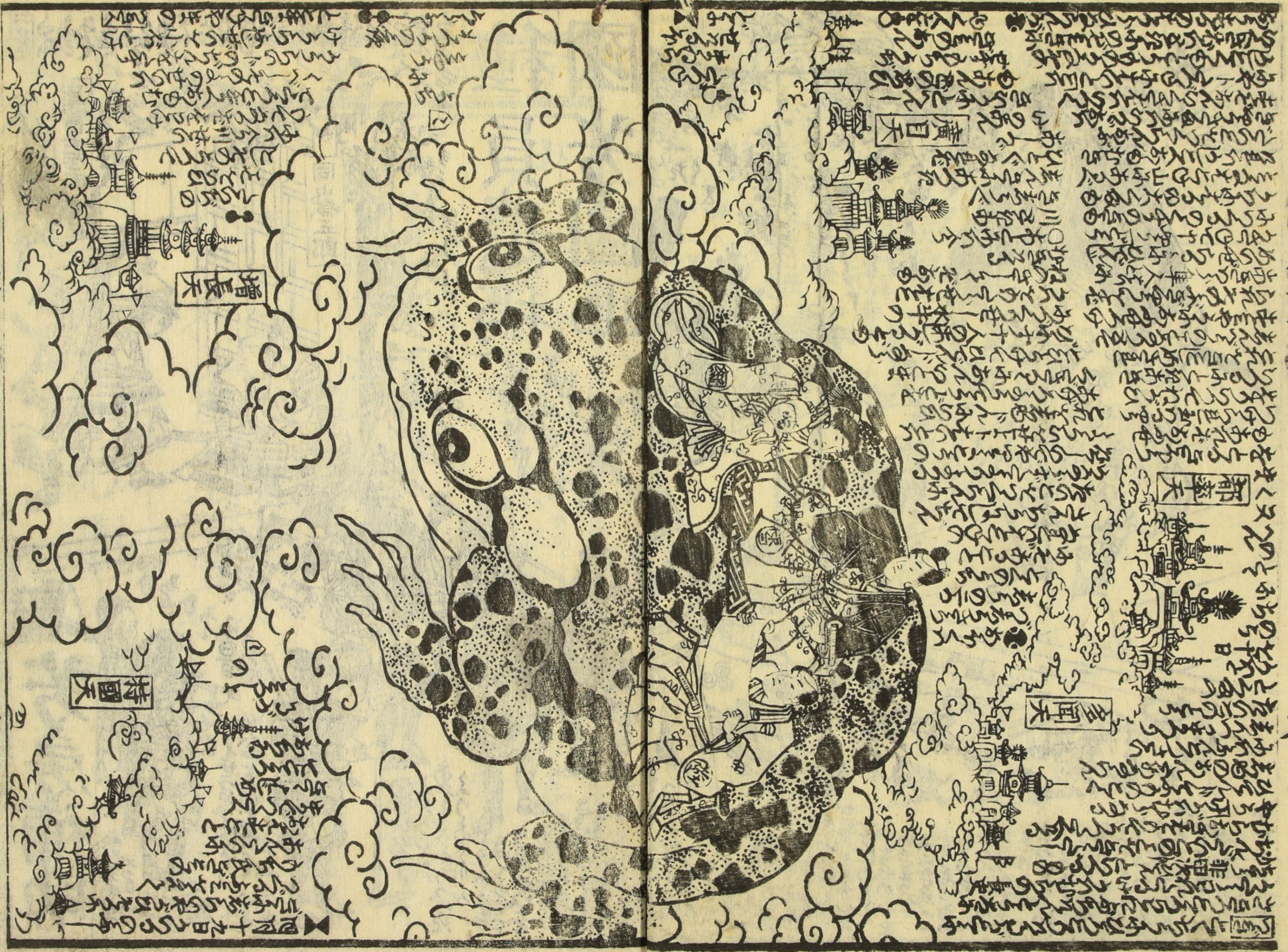


〇

主のり







廣日天

增長天

持國天

都率天

多聞天

山海經卷之十

種員遺稿  
國芳圖画



芳房補助

兒雷也豪傑譚  
三十七編 柳下亭種員作  
三十八編  
三十九編 勇齋國芳画

風俗淺間嶽  
十一編 柳水亭種清作  
十二編 勇齋國芳画

女郎花五色石臺  
八編 柳下亭種員作  
九編 勇齋國芳画

不思議塚小説櫻  
二編 柳水亭種清作  
三編 勇齋國芳画

兵部世七

十

見也傑語  
雷田豪物  
三十  
七編

國芳画圖

芳房補筆

種清補著

種員遺考

甘泉文庫

下



十歲銘  
和泉屋

種清著國芳画

兒雷也高家傑譚

三十七編下之卷





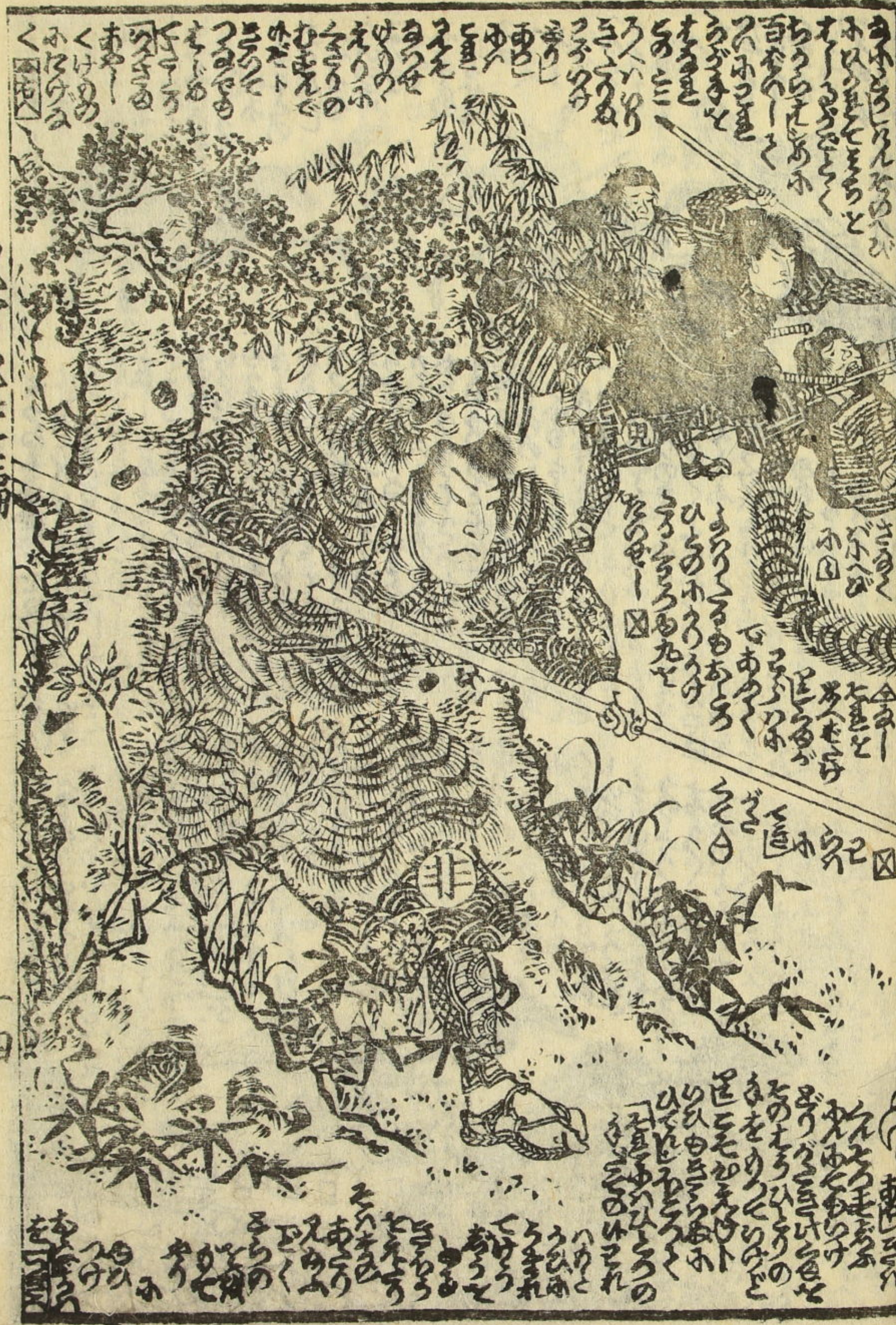
熊の皮は... 熊の肉は... 熊の骨は... 熊の胆は... 熊の心臓は... 熊の肝臓は... 熊の腎臓は... 熊の膵臓は... 熊の脾臓は... 熊の肺臓は... 熊の胃臓は... 熊の腸臓は... 熊の膀胱は... 熊の腎臓は... 熊の膵臓は... 熊の脾臓は... 熊の肺臓は... 熊の胃臓は... 熊の腸臓は... 熊の膀胱は...



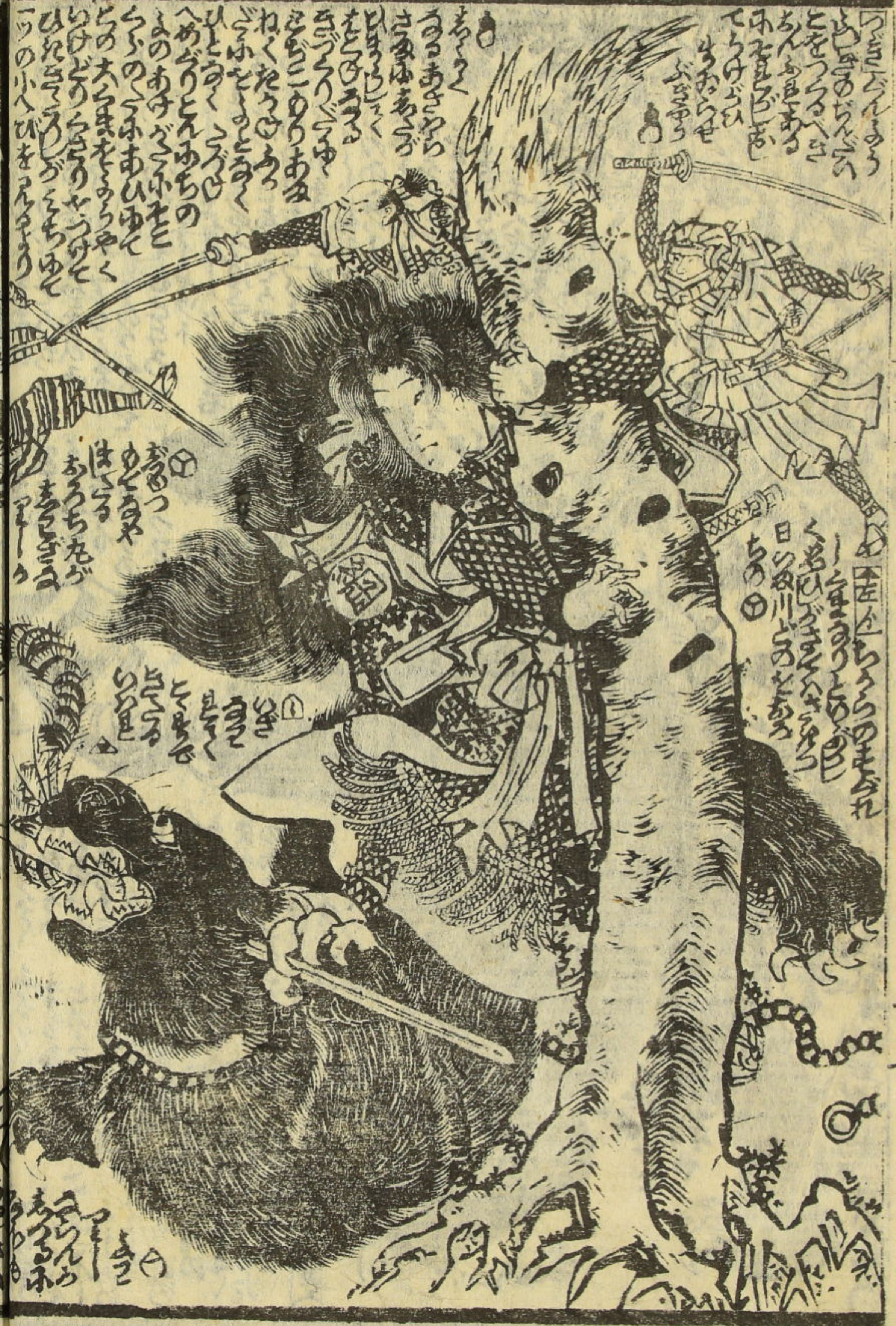
熊の皮は... 熊の肉は... 熊の骨は... 熊の胆は... 熊の心臓は... 熊の肝臓は... 熊の腎臓は... 熊の膵臓は... 熊の脾臓は... 熊の肺臓は... 熊の胃臓は... 熊の腸臓は... 熊の膀胱は... 熊の腎臓は... 熊の膵臓は... 熊の脾臓は... 熊の肺臓は... 熊の胃臓は... 熊の腸臓は... 熊の膀胱は...



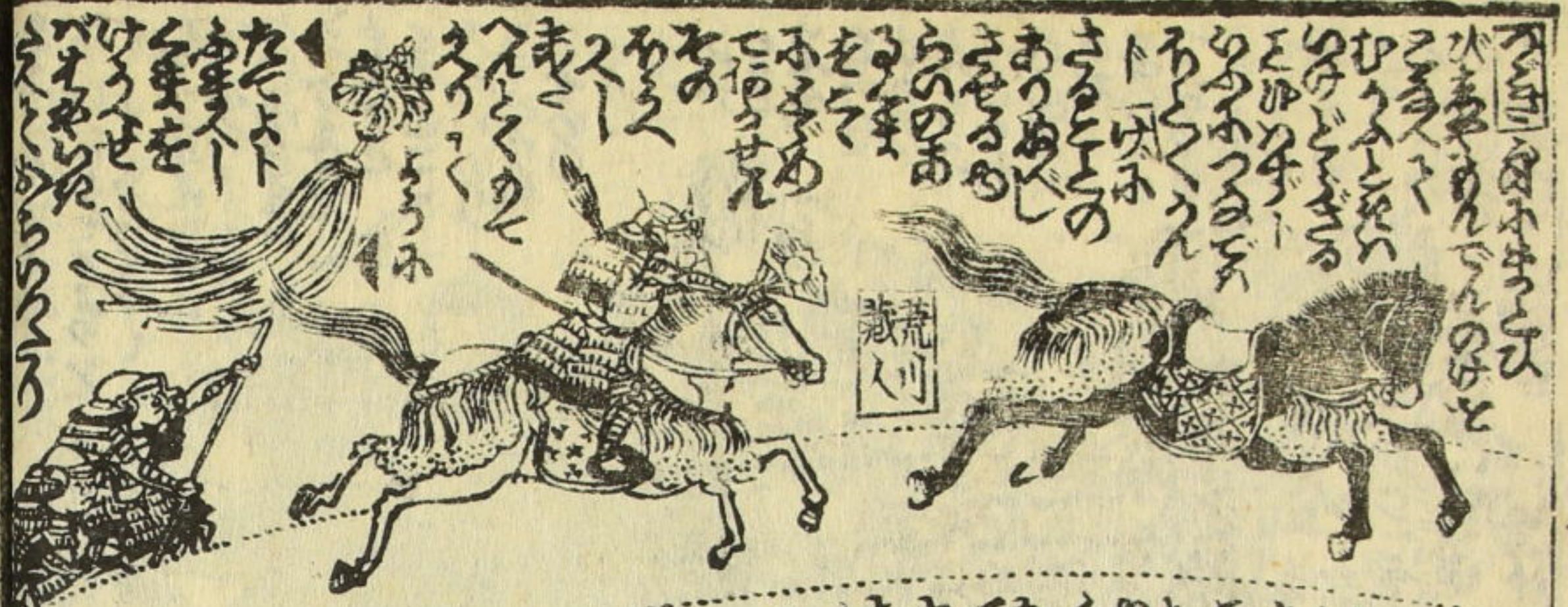




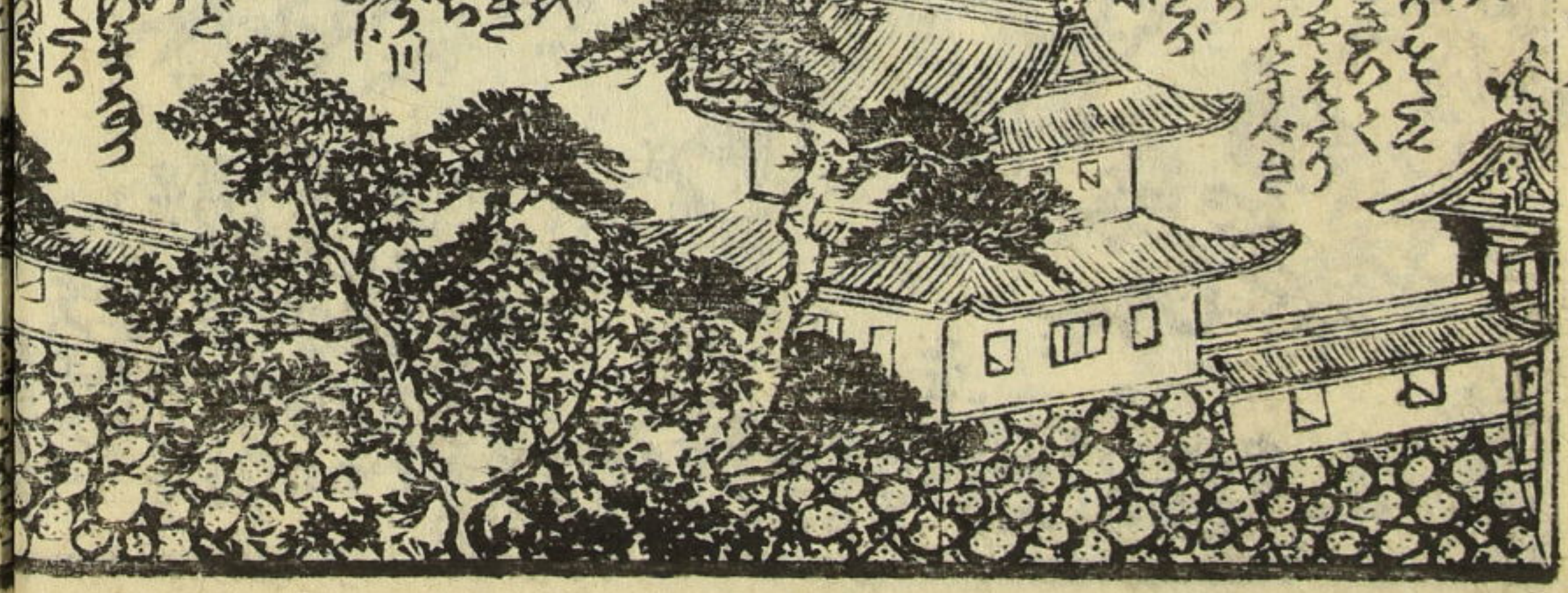
山崎の虎



山崎の虎



武蔵の兵衛七十九巻  
 此の物語は昔からあるもので  
 今更にはかきしめしめ  
 おもしろいものありて  
 読むべしと云ふこと  
 此の物語は昔からあるもので  
 今更にはかきしめしめ  
 おもしろいものありて  
 読むべしと云ふこと  
 此の物語は昔からあるもので  
 今更にはかきしめしめ  
 おもしろいものありて  
 読むべしと云ふこと

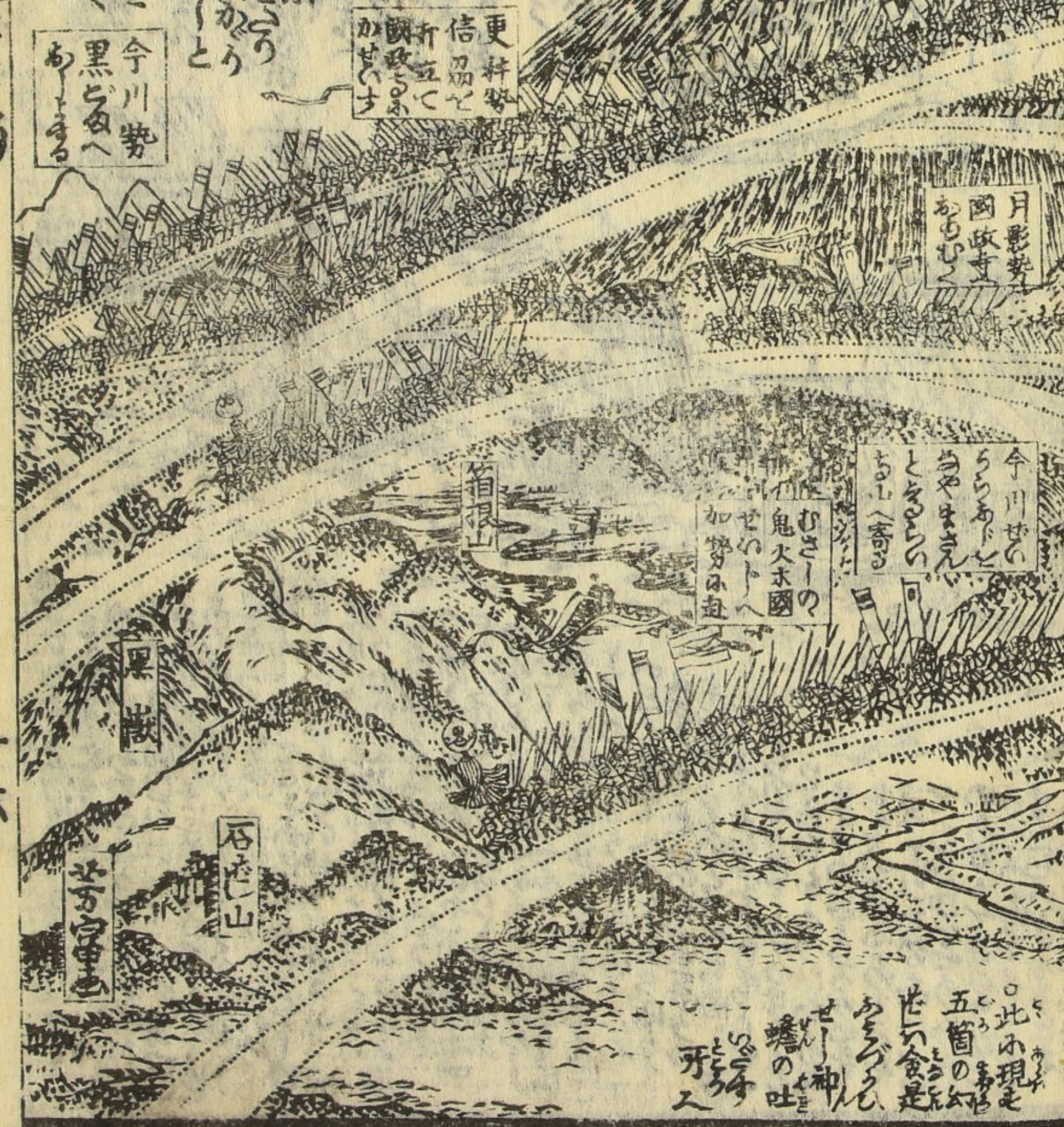


武蔵の兵衛七十九巻  
 此の物語は昔からあるもので  
 今更にはかきしめしめ  
 おもしろいものありて  
 読むべしと云ふこと  
 此の物語は昔からあるもので  
 今更にはかきしめしめ  
 おもしろいものありて  
 読むべしと云ふこと



武蔵の兵衛七十九巻  
 此の物語は昔からあるもので  
 今更にはかきしめしめ  
 おもしろいものありて  
 読むべしと云ふこと

此の山は...  
 高き山にして...  
 雲は常に...  
 風は常に...  
 霧は常に...  
 雨は常に...  
 雪は常に...  
 氷は常に...



山の名は...

今川 黒野

更科 信濃

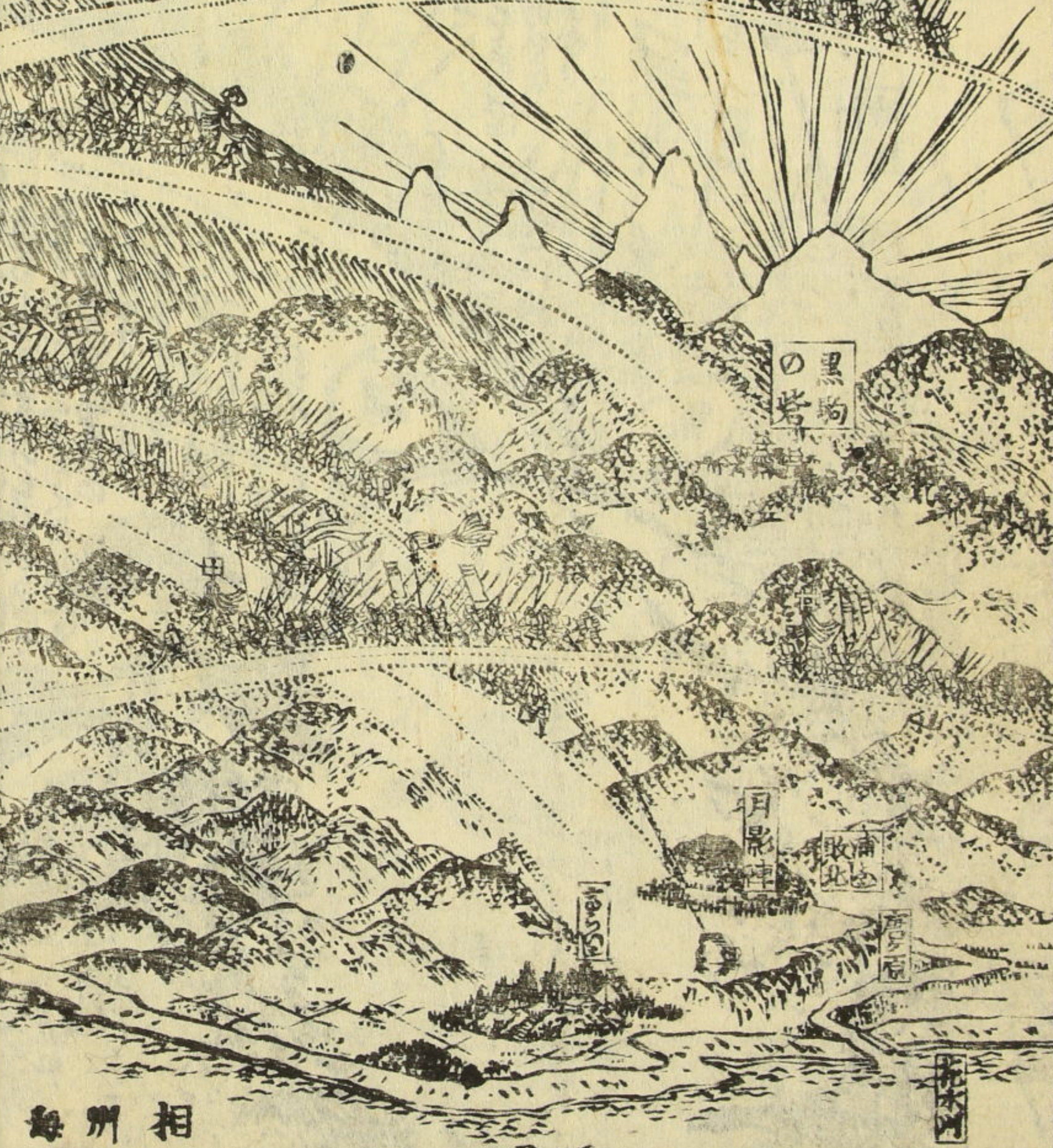
月影 國政

今川 鬼火

石山

此の山は...  
 五箇の...  
 世の...  
 神の...  
 牙の...

此の山は...  
 高き山にして...  
 雲は常に...  
 風は常に...  
 霧は常に...  
 雨は常に...  
 雪は常に...  
 氷は常に...



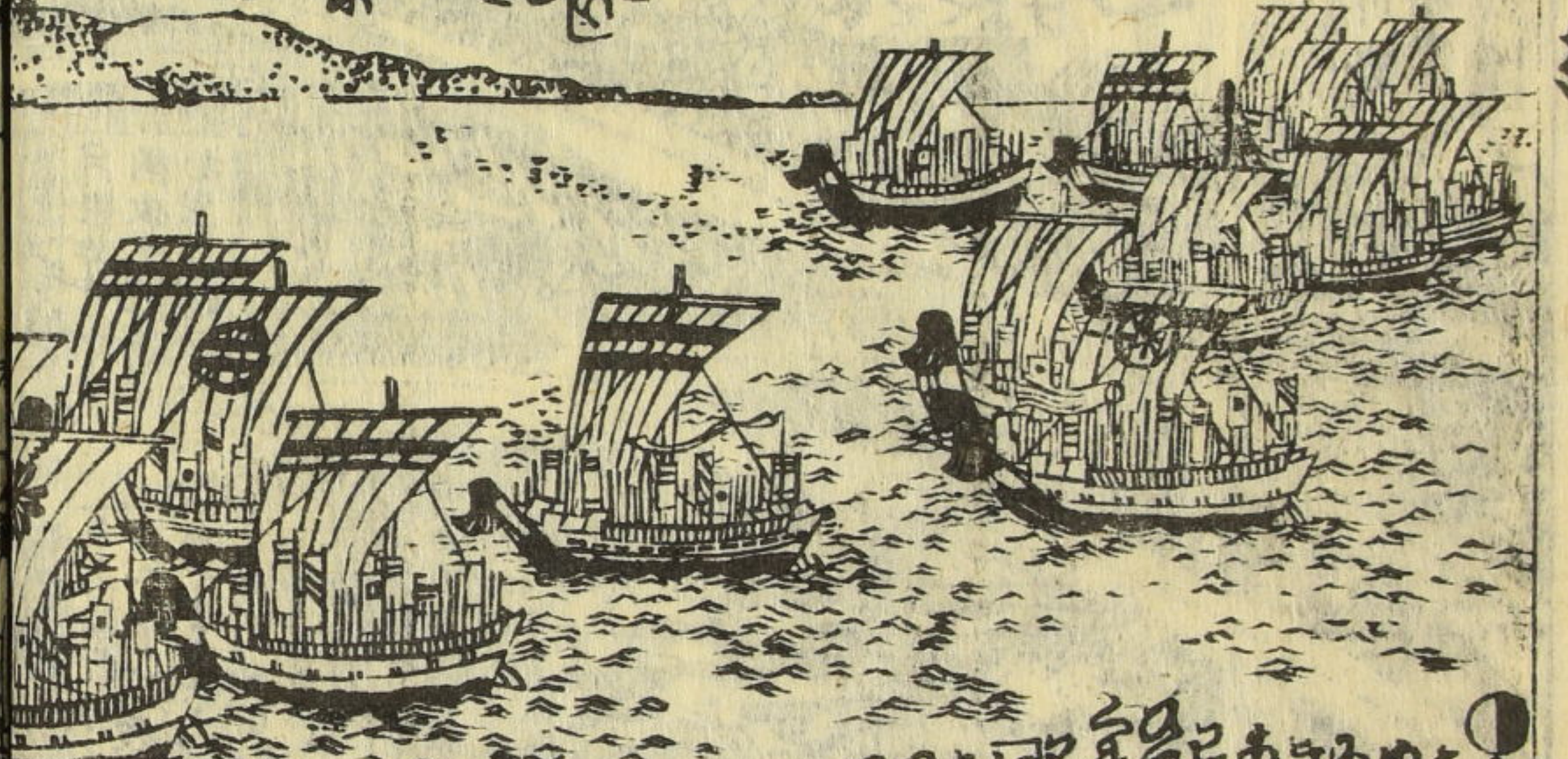
山の名は...

黒野 塔

月影 塔

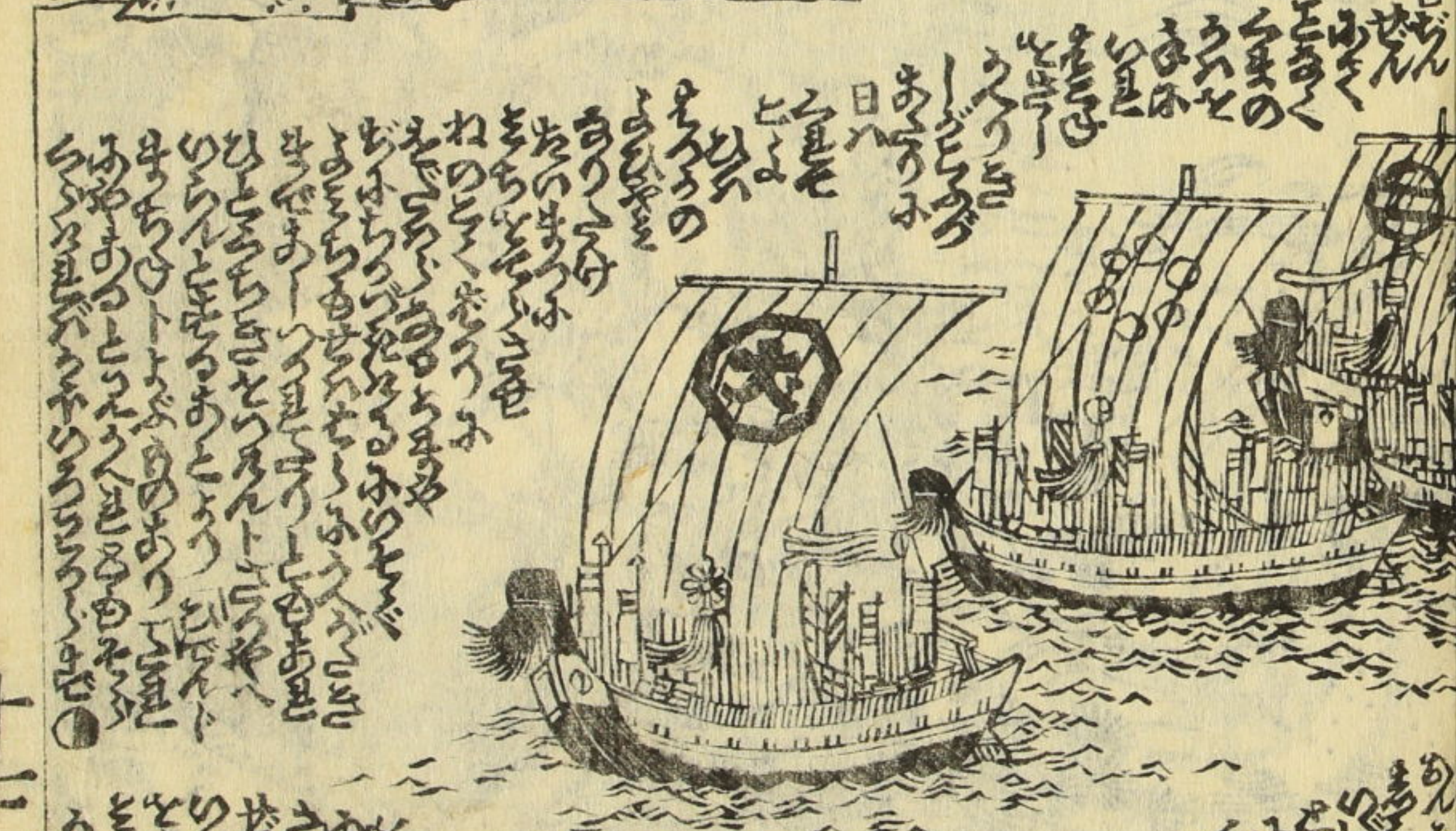
相州 海

ついでに... 船の... 帆の... 船の... 帆の... 船の... 帆の...



船の... 帆の... 船の... 帆の... 船の... 帆の... 船の... 帆の...

ついでに... 船の... 帆の... 船の... 帆の... 船の... 帆の... 船の... 帆の...



船の... 帆の... 船の... 帆の... 船の... 帆の... 船の... 帆の...

天長元年









三國世が十巻

非田次が  
造る破魔陣太鼓の  
中へ持氏君臣と舞は條  
安危存亡生々如何の  
廿八編ありて譯次とす



種員遺稿  
國芳圖画  
芳房補助

備書  
交來

忠臣  
貞婦

伊呂波文庫

五編 柳煙亭種及作  
七編 一勇齋國芳書

黄金水大盡盞

十一編 爲永春水作  
十三編 一勇齋國芳画

假名  
反古

一休

十三編 柳下亭種員作  
十四編  
十五編 一勇齋國芳画

地本錦繪  
孝紙問屋

甘泉堂

是神の前  
和泉屋

兎雷也豪傑譚  
八編

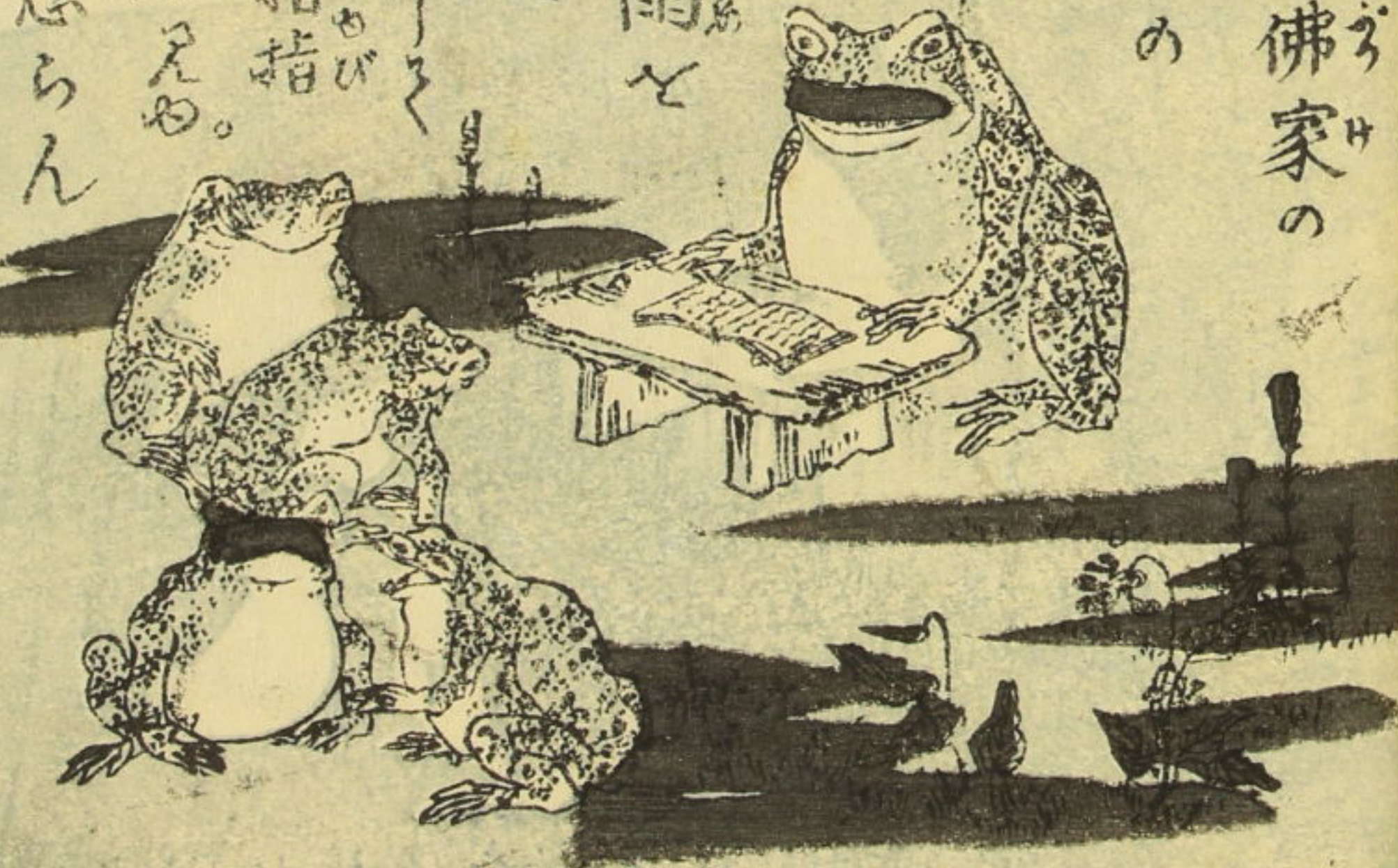
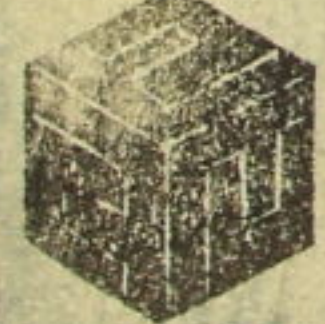
柳下真種員作



南溪の蓮子袋小記を蛙輪蛇の三疎の佛家の  
 貪瞋癡を。かゝる貪へび能瞋る。めらの  
 踏こと現る痴ありと。是を私考ふ讚を  
 言ハ智仁勇の三徳あるん致結輪が延字  
 則智ありて蟻蛇の怪力又勇ありんや。  
 蝦蟆田心の虚實を料理て苗養水小雨を  
 呼ハ是以て仁と謂べし。古今の序の歌を  
 とむと稱し這釋史の天地を磔を當念しと  
 可笑い童遊の虫拳は母指とて蛙と指指  
 出い輪とさるも兒雷也綱手か夫婦の理えぬ。  
 人さし指と蛇とさるるハ鱗の以の癖ぬや憑らん

万延辛酉春

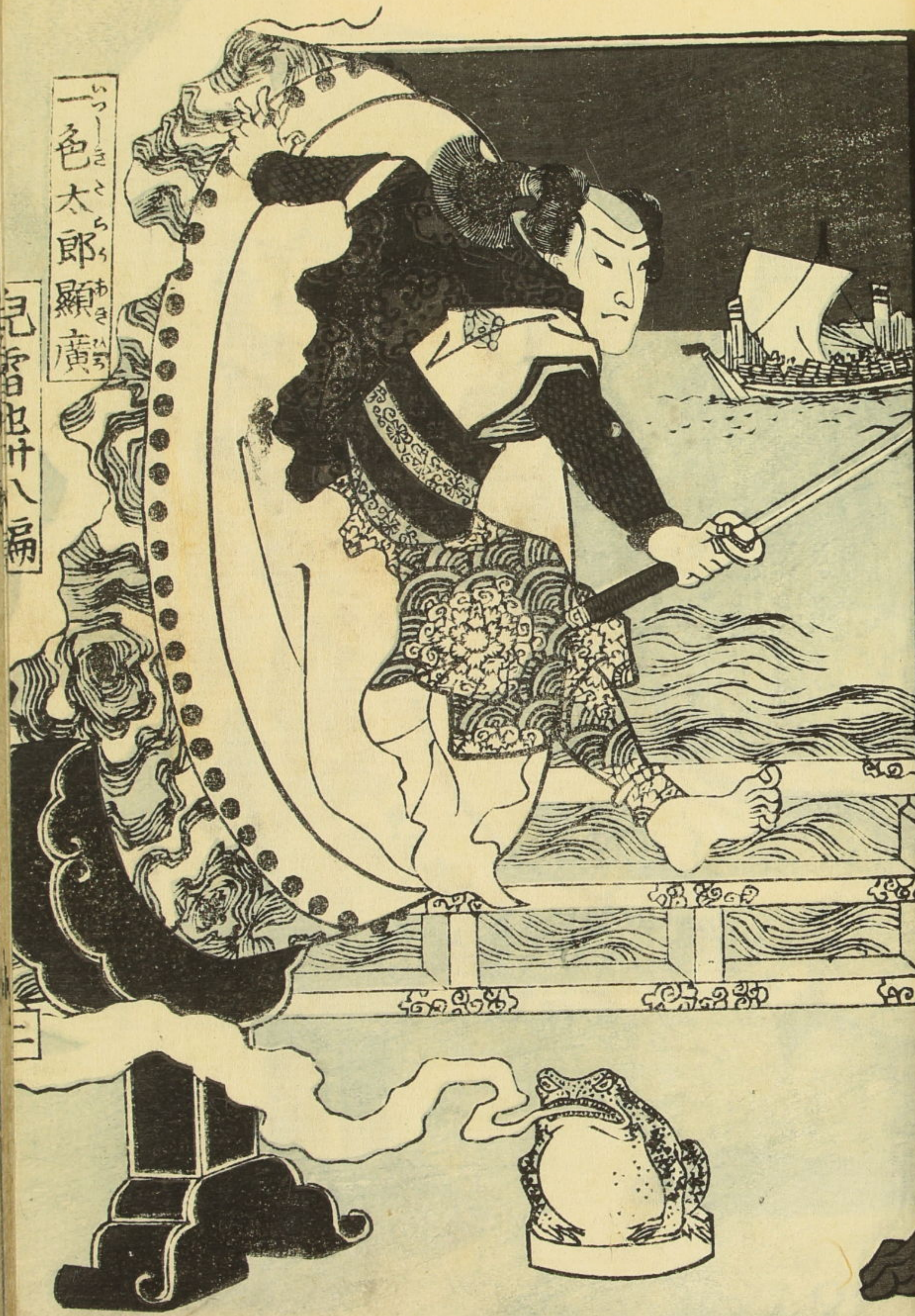
柳下亭種員



兒雷也三十八編上

修負化芳集也  
 甘泉寺様

子魚



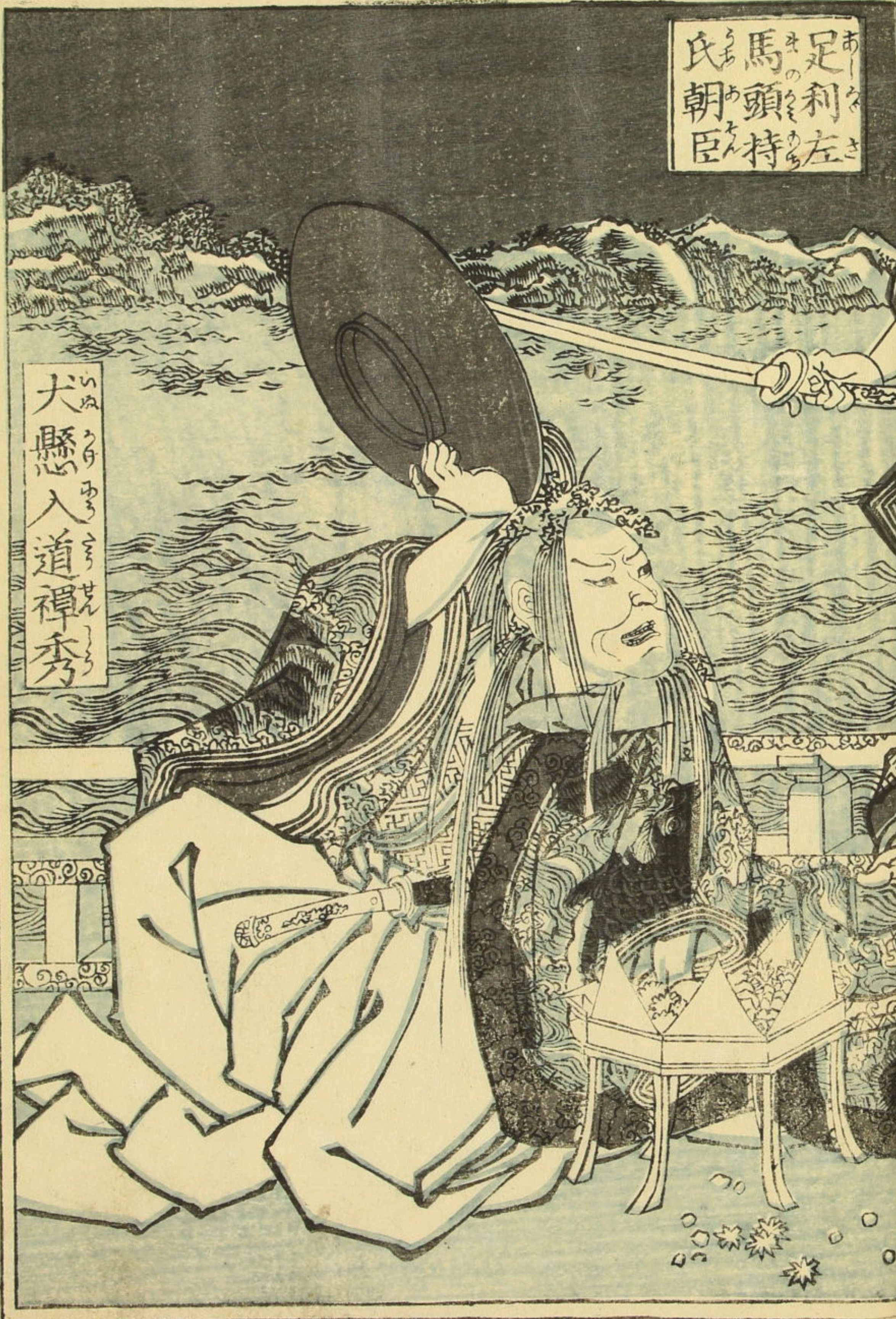
一色太郎顯廣

巳酉也十八編



上杉五郎景憲

巳酉也十八編



市川左衛門  
足利朝臣  
馬頭持  
氏

犬懸入道禪秀

四ノ目十八ノ目



蟻

白留世十八







ついでにこのおとぎ話の小のからんまの  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか

■おもく  
 りつめるかたを  
 おもくかたを  
 りつめるかたを  
 おもくかたを



○おとぎ話  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか  
 むかしのおとぎ話をきかせるにきかたか

■おもく  
 りつめるかたを  
 おもくかたを  
 りつめるかたを  
 おもくかたを







世が世のあちちかたも  
まらけしとて中をいさう  
世のせむらひのあま  
とらさせんてま  
あつちのあつちの  
二万五千をいさ  
とらさせんてま  
さみとらま  
てさあて  
やえんま  
とあらん  
ちの



あちちかたも  
まらけしとて中をいさう  
世のせむらひのあま  
とらさせんてま  
あつちのあつちの  
二万五千をいさ  
とらさせんてま  
さみとらま  
てさあて  
やえんま  
とあらん  
ちの

あちちかたも  
まらけしとて中をいさう  
世のせむらひのあま  
とらさせんてま  
あつちのあつちの  
二万五千をいさ  
とらさせんてま  
さみとらま  
てさあて  
やえんま  
とあらん  
ちの

あちちかたも  
まらけしとて中をいさう  
世のせむらひのあま  
とらさせんてま  
あつちのあつちの  
二万五千をいさ  
とらさせんてま  
さみとらま  
てさあて  
やえんま  
とあらん  
ちの

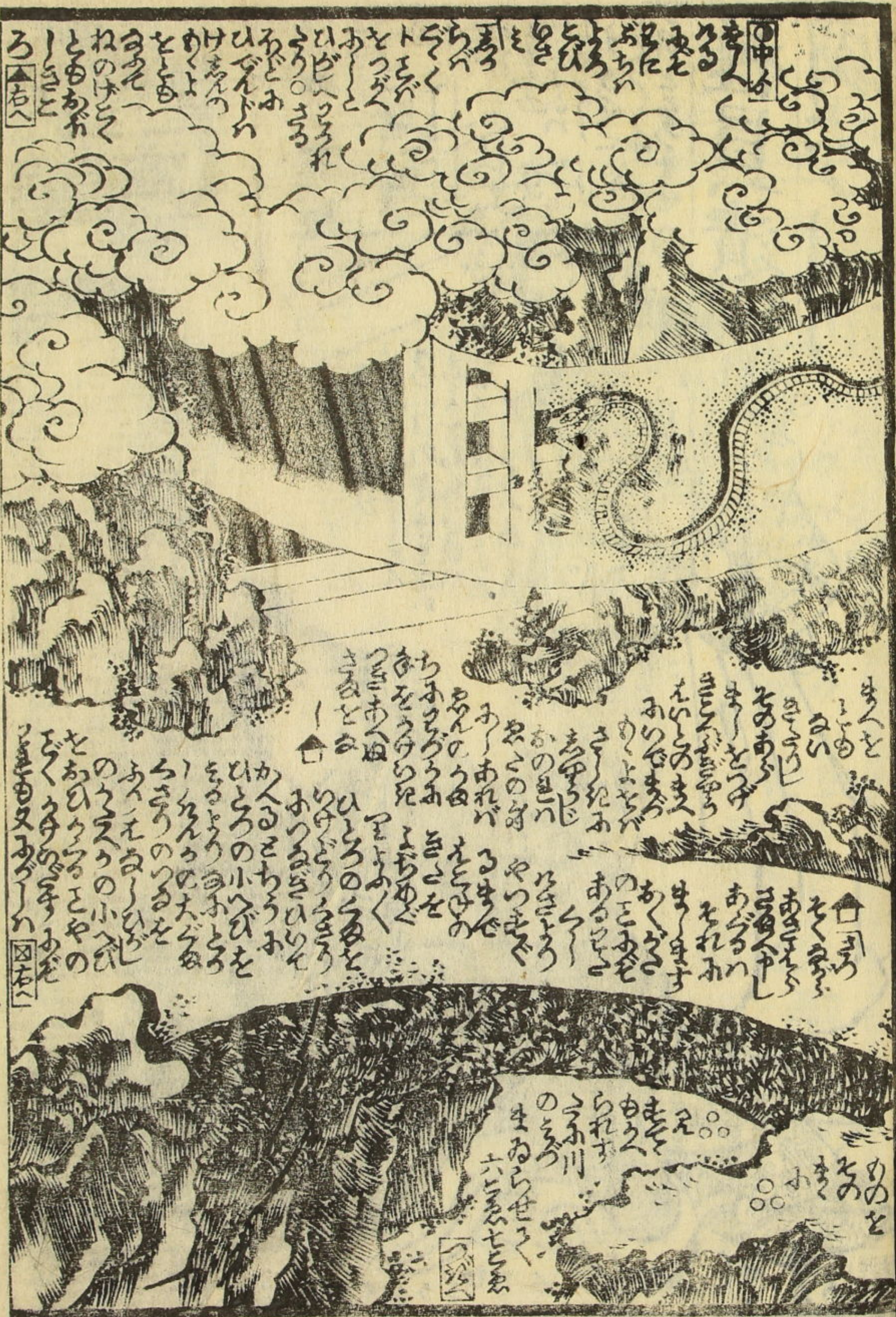
あちちかたも  
まらけしとて中をいさう  
世のせむらひのあま  
とらさせんてま  
あつちのあつちの  
二万五千をいさ  
とらさせんてま  
さみとらま  
てさあて  
やえんま  
とあらん  
ちの



日本書紀



Vertical text columns on the left side of the right page, including a small box with the character 'ト' and other characters.



Vertical text columns on the right side of the left page, including a small box with the character 'ト' and other characters.

兒雷也豪傑譚

三十七編 柳下亭齋作  
二十九編 勇齋國芳画

風俗淺間嶽

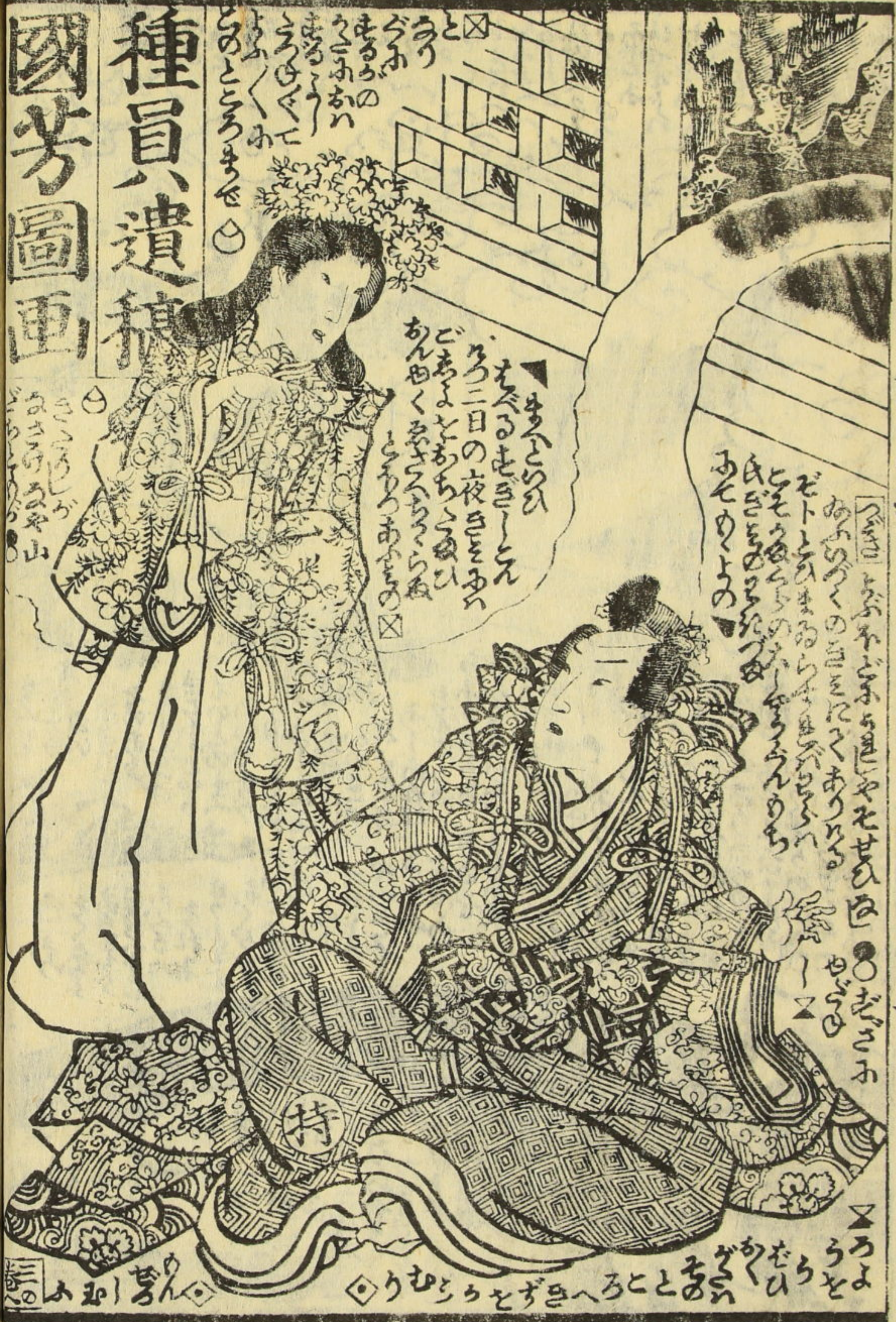
十一編 柳水亭齋作  
十二編 勇齋國芳画

女郎花五色石臺

八編 柳下亭齋作  
九編 勇齋國芳画

不思議塚小説櫻

二編 柳水亭齋作  
三編 勇齋國芳画



白雲明也世ノ...

七



一惠齋芳幾画

下

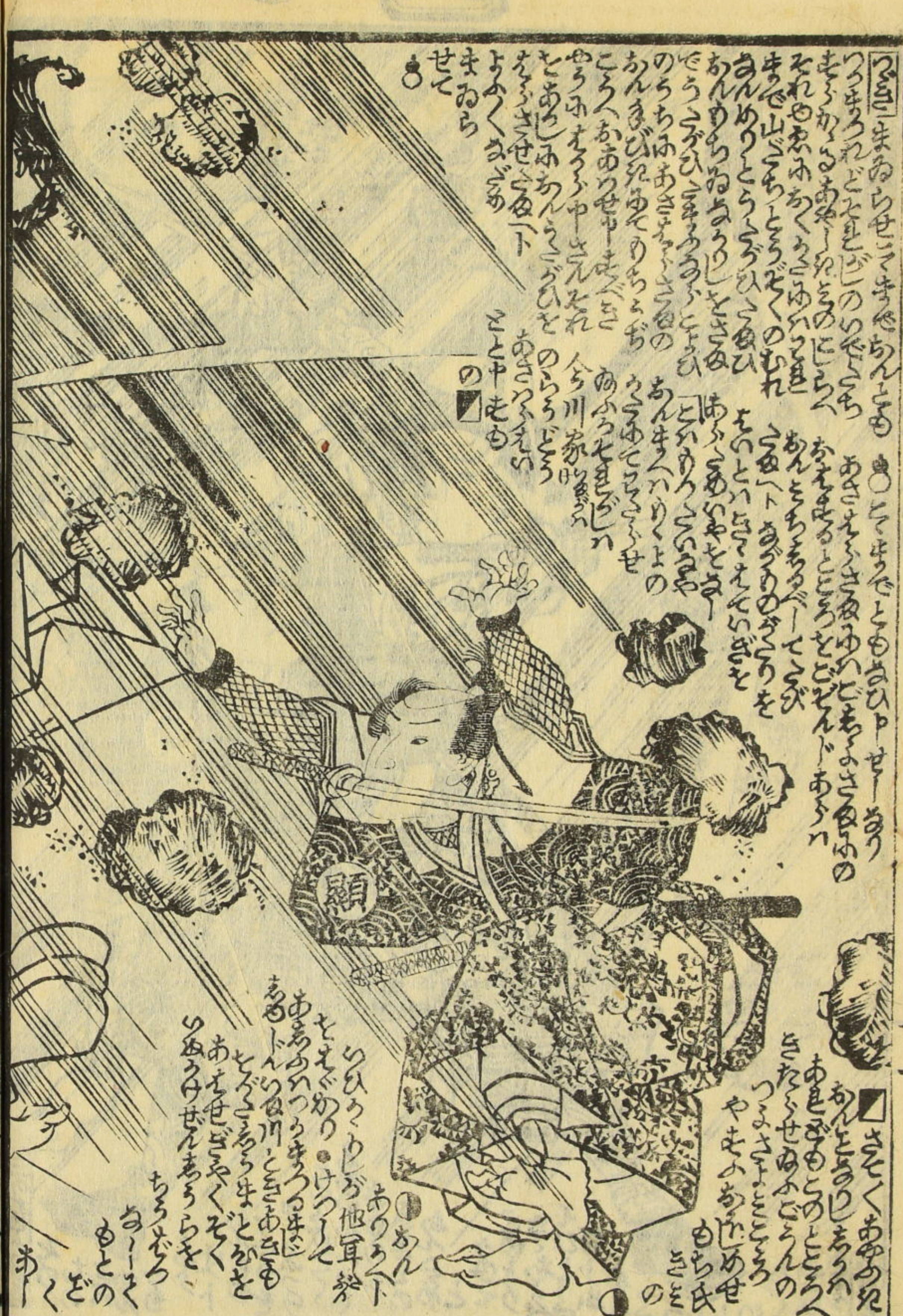






あつめ下り  
 だまんとさるゆり  
 えととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの

あつめ下り  
 だまんとさるゆり  
 えととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの

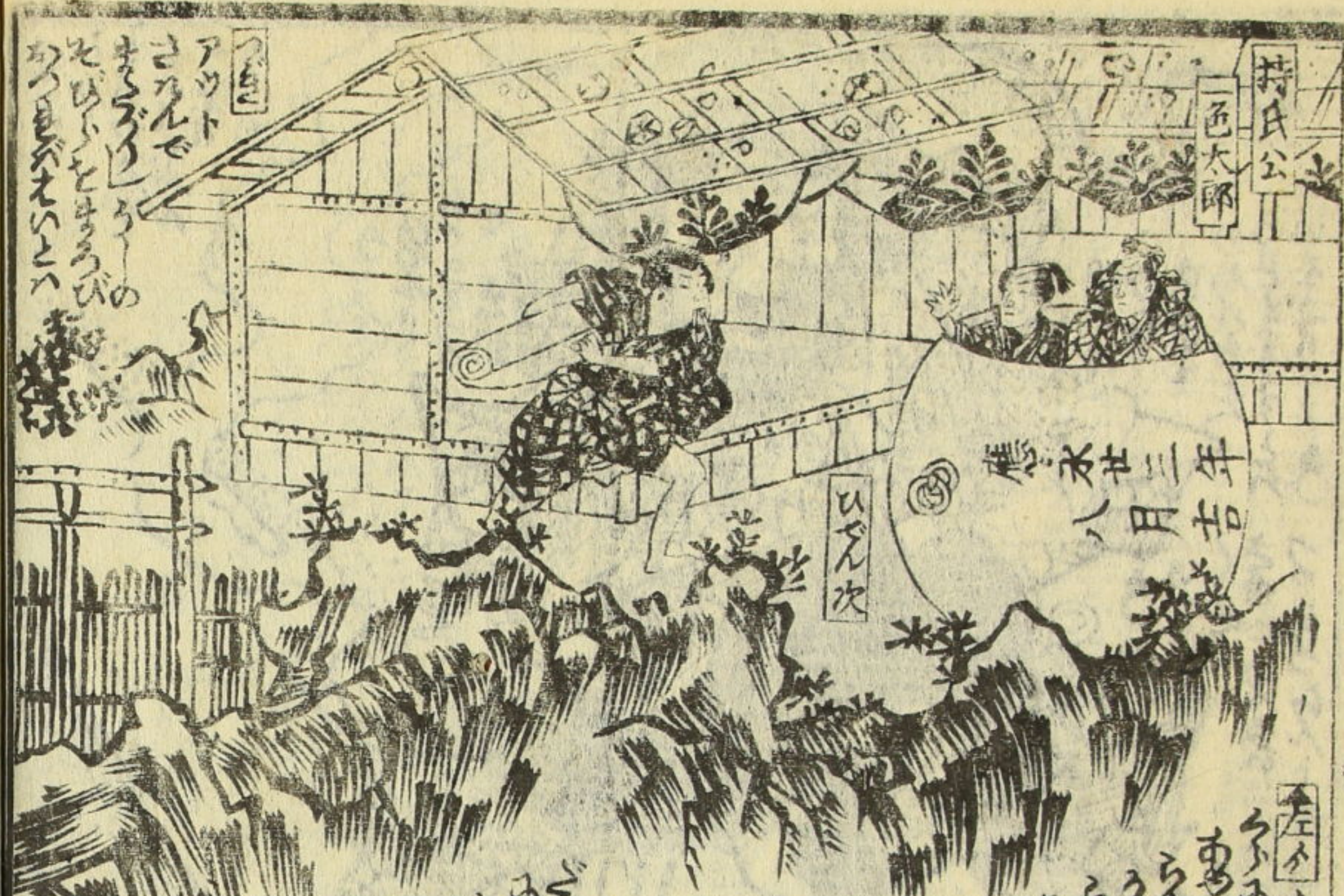


あつめ下り  
 だまんとさるゆり  
 えととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの

あつめ下り  
 だまんとさるゆり  
 えととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの  
 そととくしやがりの







Left column of text on the right page, including the name '阿武' at the top left.



Top column of text on the left page, including the name '天て' at the top left.

Bottom column of text on the left page.



山崎屋十八巻  
 此の巻は山崎屋の物語を  
 述べて居る。山崎屋の  
 主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。  
 山崎屋の主人は山崎屋  
 の主人である。山崎屋  
 の主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。

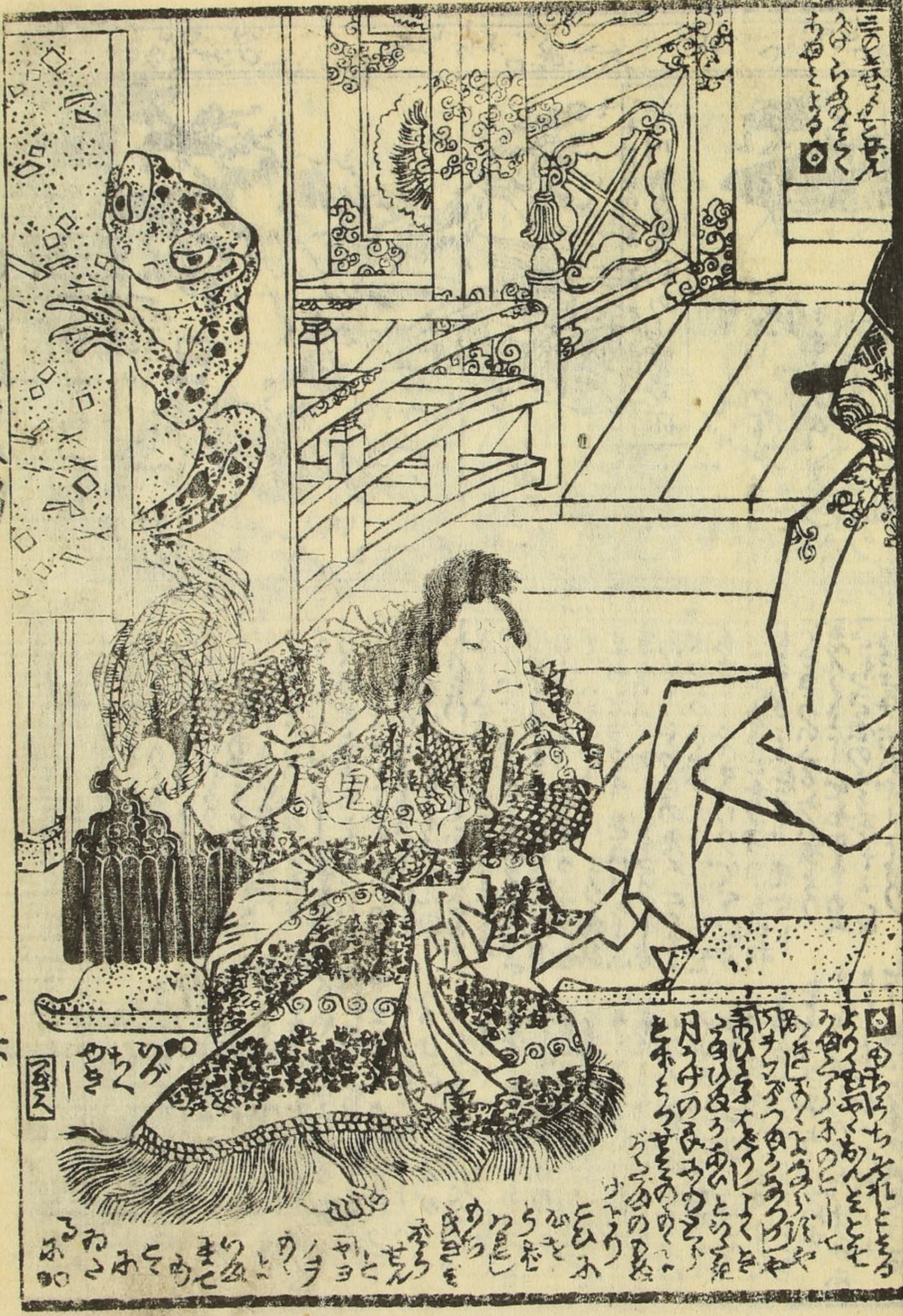
山崎屋十八巻  
 此の巻は山崎屋の物語を  
 述べて居る。山崎屋の  
 主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。  
 山崎屋の主人は山崎屋  
 の主人である。山崎屋  
 の主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。



山崎屋十八巻  
 此の巻は山崎屋の物語を  
 述べて居る。山崎屋の  
 主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。  
 山崎屋の主人は山崎屋  
 の主人である。山崎屋  
 の主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。

山崎屋十八巻  
 此の巻は山崎屋の物語を  
 述べて居る。山崎屋の  
 主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。  
 山崎屋の主人は山崎屋  
 の主人である。山崎屋  
 の主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。

山崎屋十八巻  
 此の巻は山崎屋の物語を  
 述べて居る。山崎屋の  
 主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。  
 山崎屋の主人は山崎屋  
 の主人である。山崎屋  
 の主人は山崎屋の主人  
 である。山崎屋の主人  
 は山崎屋の主人である。



三のまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて

あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて

あつちのまはつたて

あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて

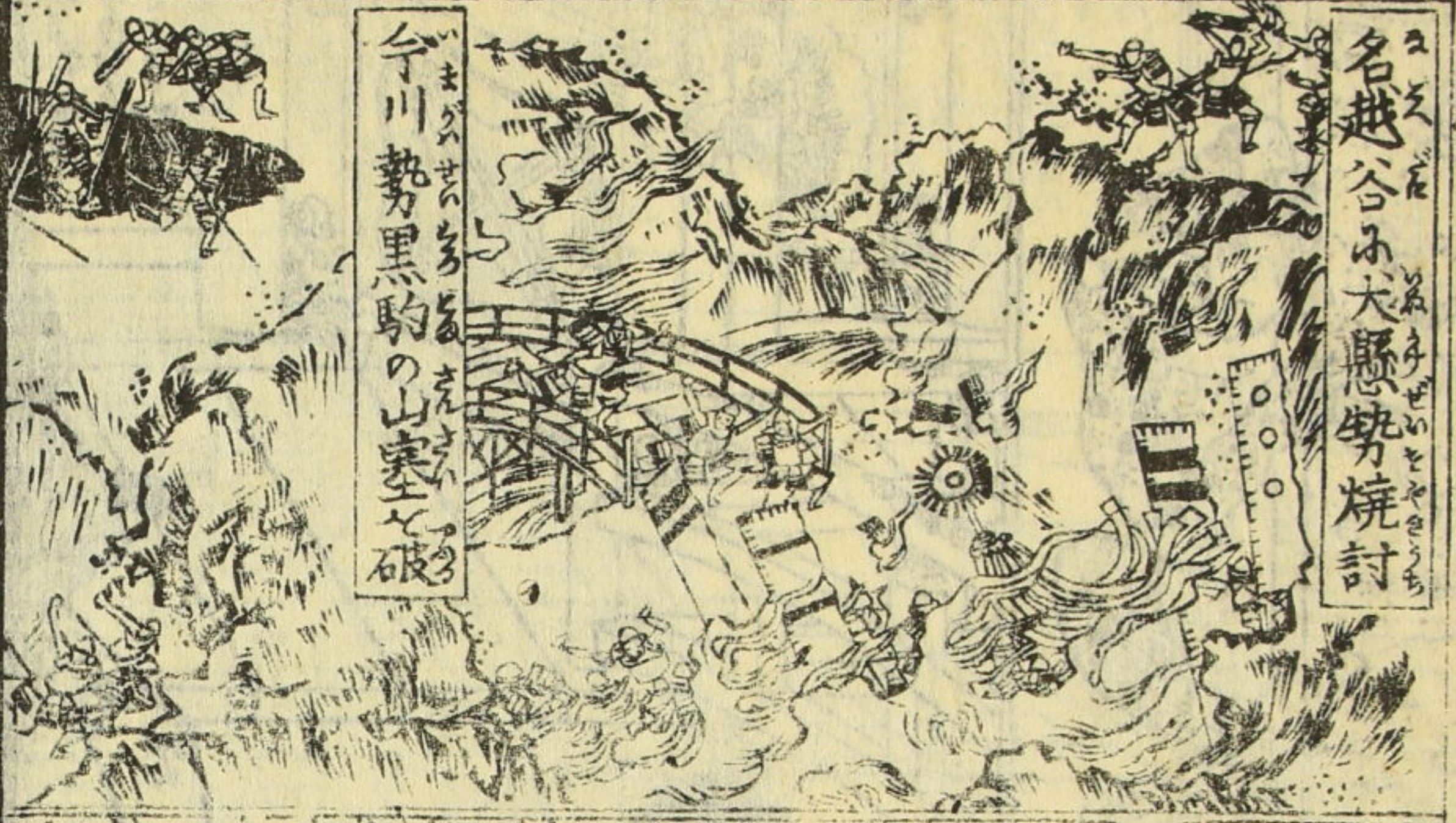


あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて

あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて

あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて  
あつちのまはつたて

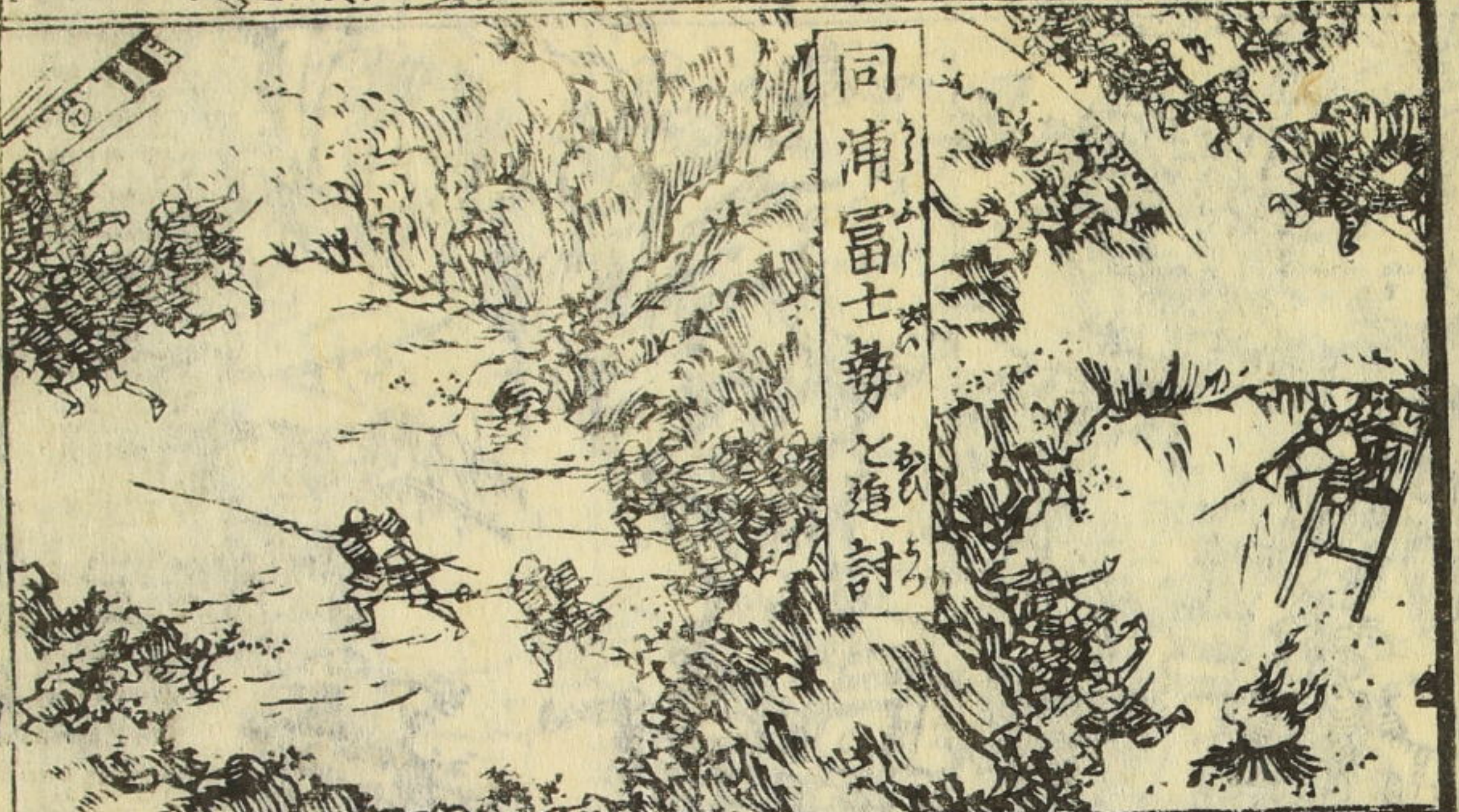
名越谷ふ大懸勢焼討



今川勢黒駒の山塞を破

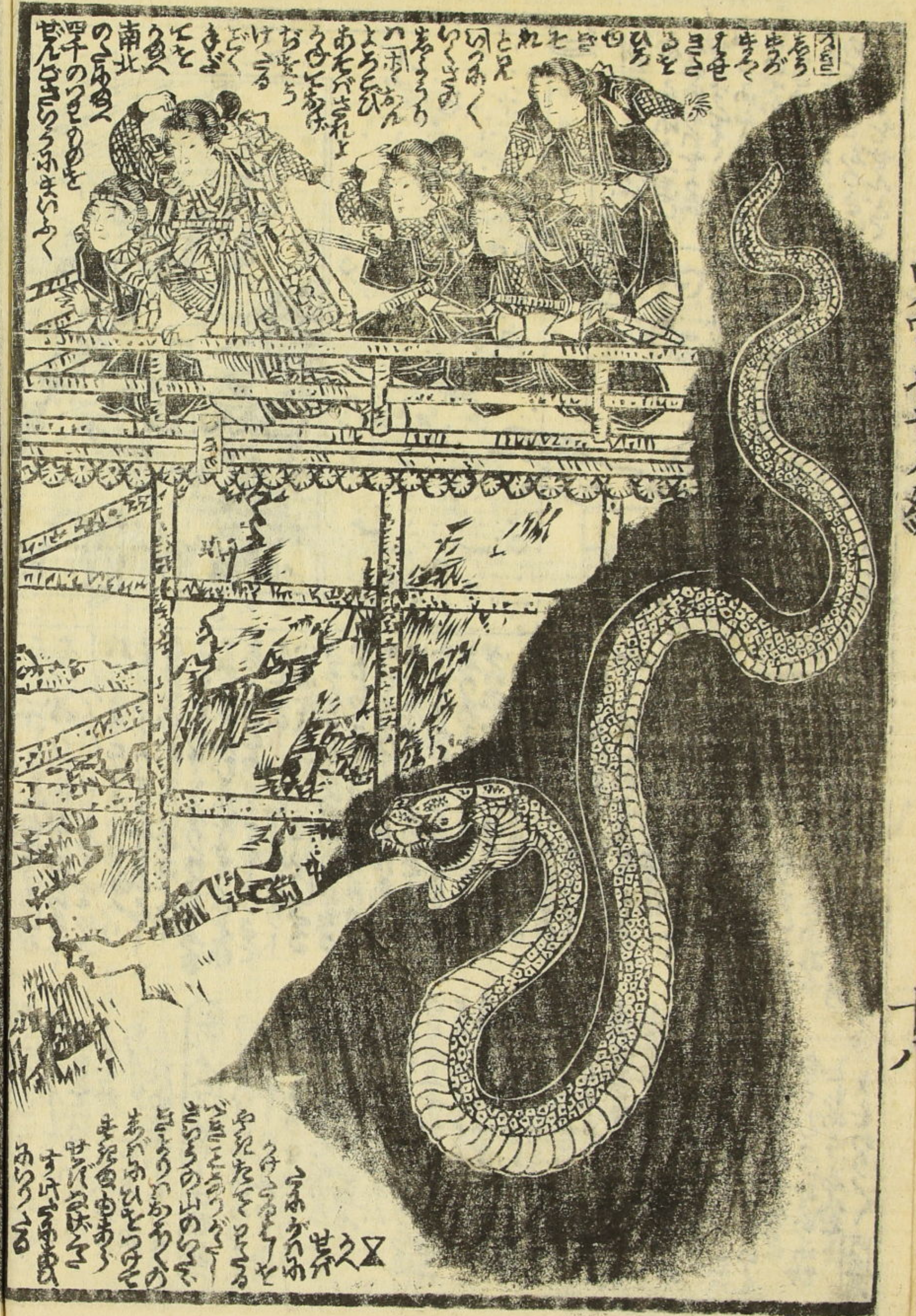
ついでに... 今川勢黒駒の山塞を破... 名越谷ふ大懸勢焼討... 白雷世廿八

同浦富士勢と追討



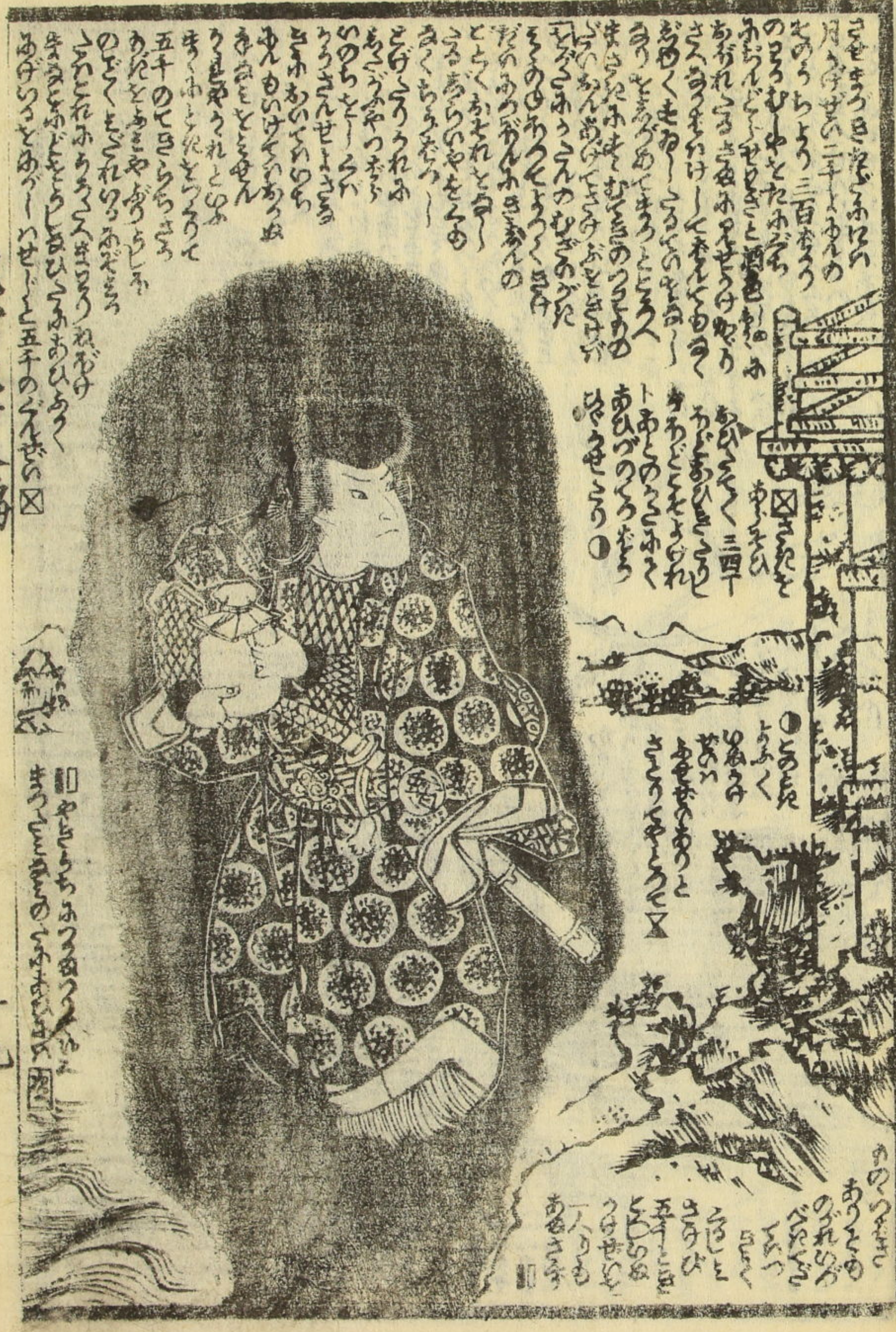
ついでに... 同浦富士勢と追討... 白雷世廿八





此の蛇は千石重なりて  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり

此の蛇は千石重なりて  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり



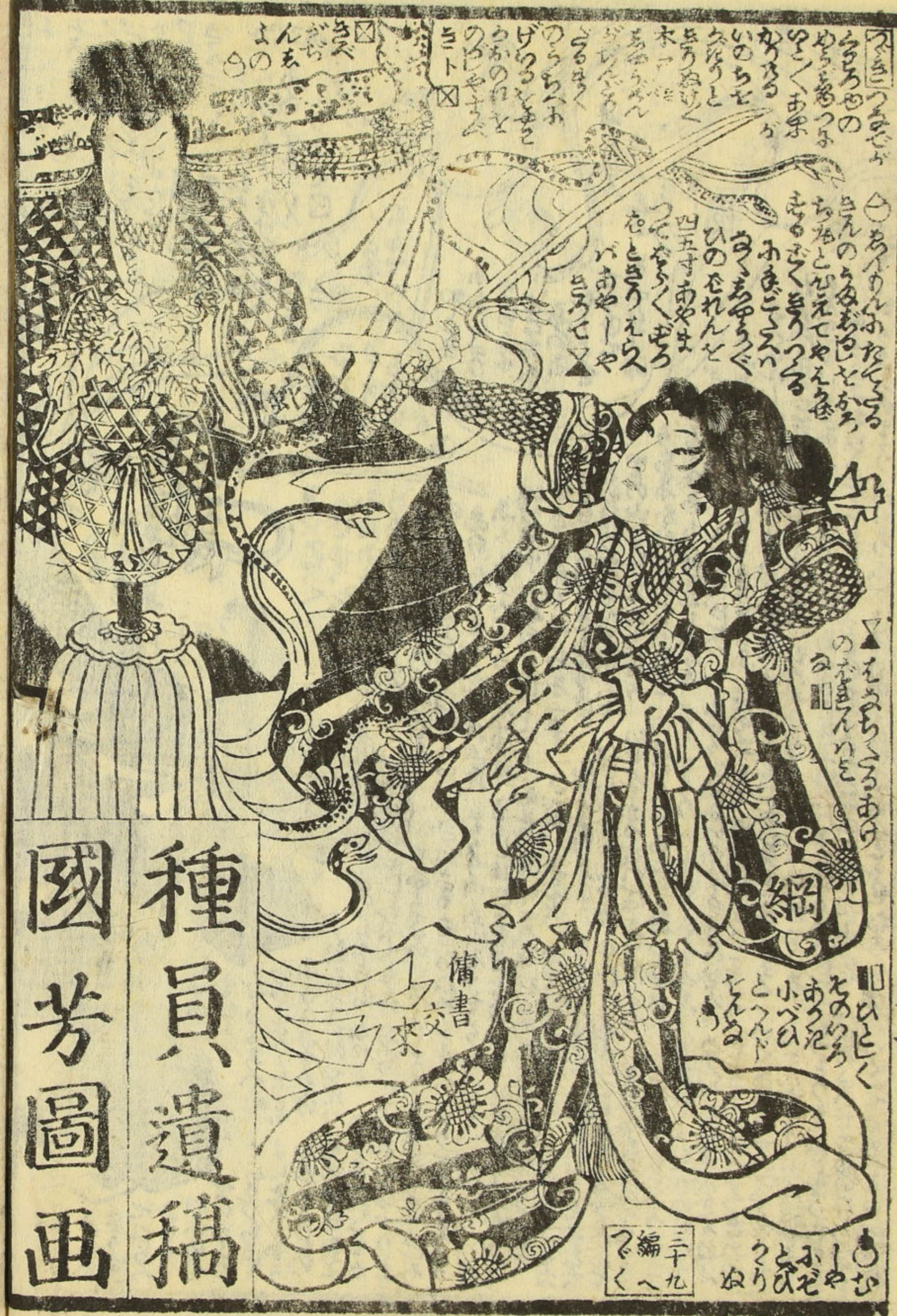
此の妖怪は千石重なりて  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり  
其の毒は五臓六腑を  
蝕み人を殺すなり

此の妖怪は千石重なりて

此の妖怪は千石重なりて







種員遺稿  
國芳圖画

忠臣 貞婦 伊呂波文庫 柳煙亭種員作 勇齋國芳畫

黄金水大盡蓋 為永春本作 勇齋國芳畫

假名 反古 一休 柳下亭種員作 勇齋國芳畫

地本錦繪 甘泉堂 足神心齋 和泉屋



	极	画	作	三十八	见雷也	番组
以上	元	师	老	编	物	
	泉	国	种	一	语	
	市	芳	清	帙		



狂  
 魚  
 魚  
 魚